

おおさか職業教育力向上作戦ニュース

～英数国理社だけではない多様な進路をこどもたちに～

第2号

平成20年 9月 1 日発行

発行者:(社)大阪府専修学校
各種学校連合会

中高生が「将来の仕事」を考えるワークショップイベント

「13歳のハローワークマップで仕事探し・自分探しの旅に出よう！」で 子どもたちがオリジナル仕事マップを作成しました！

ゲストのトークやワークショップを通じて子どもたちが将来の仕事について考えるイベント「13歳のハローワークマップで仕事探し・自分探しの旅に出よう！」を8月2日に開催、中高生約120人、保護者や教員約150人の計270人が参加し、将来の仕事について考えました。

コーディネーター役に東京都杉並区立和田中学校校長代田昭久氏、ゲストスピーカーとして、大阪府知事である橋下徹氏、関西を代表するパーソナリティ角淳一氏、「13歳のハローワーク」のイラストレーターはまのゆか氏が参加、子どもたちに今の仕事に就くきっかけややりがいなどをお話していただきました。ゲストトークの後には、子どもたちからも質問が出されました。

この中で、橋下知事は、「人から『ありがとう』と言われる仕事は長く続く。たくさん仕事を知って、自分に合った仕事を見つけてほしい。」「英数国理社だけではない、子どもたちがそれぞれ得意なことを活かし、やりたいことが選べるようにしていきたい。」とエールを送りました。

その後、「人のためになることが好き」「自然と科学が好き」など、5つのキーワードをもとにグループに分かれ、キーワードを中心にさまざまな仕事について出し合い、それぞれがオリジナルの仕事マップを作り上げました。

(ワークショップの詳細、オリジナル仕事マップについては次ページに掲載しています。)



主催：大阪府専修学校各種学校連合会、企画運営：みんなの未来地図製作委員会

後援：大阪府、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会、(独)雇用・能力開発機構大阪センター、
大阪商工会議所、大阪府中小企業団体中央会

協賛・協力：大阪労働局、ハローワーク(公共職業安定所)

「13歳のハローワークマップで仕事探し・自分探しの旅に出よう！」8月2日

みんなが一緒になってがんばりました！ワークショップの様をお伝えします。

子どもたちの個人作業風景

まずは、子どもたちがそれぞれ今の自分の興味のあることや関心のあることを、できるだけたくさん書き出します。

好きなものや趣味、特技など、いろんなことを考えるうち、その中でも自分にとって一番大事なものも出てきました。



子どもたちグループ作業風景

次は、グループ作業です。子どもたちは、みんなと話しながら進めるのが楽しそうです。それぞれのグループは、みんなの好奇心に沿ったキーワードによって、集まったグループです。

- ☆ 人のためになることが好き
- ☆ 旅と海外が好き
- ☆ スポーツが好き
- ☆ アートが好き
- ☆ 自然と科学が好き

5つのキーワードで分かれた子どもたちは、それぞれのキーワードの周辺にある職業をみんなで考えていきます。名前だけしか知らない職業については、ファシリテーターやサポートをしてくれる先輩に聞きながら書き出していました。

ひとつのキーワードから、あっというまにいろいろな職業が繋がって、白かった模造紙は職業を書いた紙で色とりどりになりました。



大人も一緒に考えました

橋下知事は、保護者や先生方に、「例えば、法律であれば、弁護士、裁判官、司法書士など、いろいろな仕事があります。最初から狭く考えすぎないでください。子どもたちには、向き、不向きもあります。保護者の皆さんや学校の先生と、力を合わせていろんな進路を提供していきたい。」と話しました。

その後、続けて、保護者や先生向けのガイダンスも行われました。



みんなのオリジナルの仕事マップ

子どもたちの作った仕事マップの一部を紹介します。



ファシリテーター(専修学校教員)の声

私のグループは、中学1年生3人と高校3年生1人の4人のグループでした。最初は固かった子どもたちですが、打ち解けたすとコミュニケーションも弾み、職業を話し合う段階では、かなりたくさんの職業が出てきました。

それぞれの子どもたちも、具体性はないものの、興味や関心ある職業・仕事ははっきりしており、職業に関する知識・情報は身に付けているという印象でした。

しかし、職業の名前は知っているのですが、どうすればその職業に就けるのか、また、その職業に就くための資質、職業の特徴などについてはわからないようで、質問を受ける場面もありました。専修学校の教員や卒業生がアドバイスできる体制で進めていたため、子どもたちも具体的に職業について考えることができたのではないかと思います。

子どもたちは途中、キーワードに沿った職業を出していくのですが、リアリティをもった職業が出てこず、今回の取り組みなどの必要性を強く感じました。日常の中に仕事を持った大人が多くいるにも関わらず、子どもたちに伝えられていない。

私自身、学校では、学生の出口(幸せになるためには社会で自立できることが不可欠です)をいつも見据えて毎日を過ごしているのですが、職業教育に携わる者として、子どもたちに仕事をリアリティを持って話せるよう職業体験などの機会を提供していくことが私たちの使命であると改めて感じました。

中学1年生から高校3年生までのグループでしたが、最初の話の中でそれぞれの生徒の個性がわかり、楽しくグループ作業を促していきました。子どもたちの年齢差にも関わらず、みんなが主体的に参加でき、とてもすがすがしい一日でした。

あなたの学校でも活用してみませんか！

中学校・高等学校で活用できる

「職業ガイダンス」や「職業体験」をお知らせします！

【職業ガイダンス】

さまざまな職業分野について、実務経験のある専修学校の教員が、高校や中学校に出向いて、仕事内容や必要な資格や技能を説明したり、生徒からの質問を受けたりするものです。既に実施した事例では、高校からの要請に応じ、約2時間のホームルームに、生徒が関心のある職業を選んで、講師からの話を聞くという形で、16分野の講師を派遣しています。

【職業体験学習】

中学校・高校在校生を対象に、専修学校において職業体験を実施しています。業界で活躍するプロなどが教鞭をとっている専修学校では、体験学習においても本格的な職業体験を実施しており、現場で使っている設備や機材を使って体験できるなど、本気で職業について考えることが可能です。

既に実施した事例では、職業について普段自分が見ている何気ないことでも「技術」としてしっかり指導し、チャレンジさせると生徒たちは「難しい」と答えるなど、職業を具体的に感じ、考える機会となっています。分野によっては、実際にその職業で活躍している講師から実体験に基づいた話や業界についての話が聞けるものもあります。

これらの事業は、中学校、高校の総合的な学習の時間などにも活用していただけますので、大専各までお気軽にご相談ください。

専修学校に関するデータ集(1) ～専門学校の就職状況～

大阪府内の専門学校を卒業した人のうち、就職するのは約75%(大学では約68%)です。このうち、自分が学んだ分野に関連する職業についての割合はどのくらいだったと思いますか？

なんと、大阪府内の専門学校の卒業生では、約95%の人が学んだ分野に関連する職業についてがらばっています。特に、服飾・家政分野で99%、医療分野で98%、衛生分野で97%と、ほとんどの人が専門学校で学んだことを活かして、社会で働いています。

本当にやりたいことが決まっているのであれば、このような実績を持つ専門学校を見学して、その職業についてもっと知ってみるのもいいかもしれませんね。

(平成19年度学校基本統計より)

このニュースへのお問い合わせは・・・



(社)大阪府専修学校各種学校連合会

(住所) 〒534-0026 大阪市都島区網島町6-20 大阪府私学教育文化会館内

(TEL) 06-6352-0048 (FAX) 06-6352-7553 (mail) info@osaka-senkaku.or.jp